

令和5年度第2回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和6年2月7日（水） 13時30分～15時30分

会 場：鳥取市役所本庁舎7階 全員協議会室

出席者：【鳥取市政懇話会委員（12名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 西垣豪委員

小川原秀哉委員、下江信之介委員、綱本信治委員、中井みずほ委員、西山信一委員、
野村康典委員、深沢あゆみ委員、前岡美華子委員、眞木真理委員、山田節子委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、乾総務部長、塩谷企画推進部長、
河井経営統括監、竹間市民生活部長、大野経済観光部長、岸本副教育長
上田政策企画課長、酒本政策企画課長補佐

1 開会

2 市長あいさつ

本日は大変お忙しい中、市政懇話会にご出席いただき、感謝申し上げます。このたび、新たな任期での委員の皆様による最初の懇話会となる。どうぞよろしくお願い申し上げます。委員の皆様には、日頃より鳥取市政の推進に格別なるご理解・ご協力を賜っており、この場をお借りし、心より感謝申し上げます次第である。

本日は、2つのテーマについてご議論を賜りたい。1つ目のテーマは「若者定着の推進について」である。現在、全国で人口減少・少子高齢化が少しずつ進んでおり、鳥取市も少しずつであるが、人口が減少している。その要因はいろいろあるが、1つははっきりしているのは、20代前半ぐらいの方が市外に転出するという社会動態が続いていて、そのことが鳥取市の人口減少の大きな要因の1つとなっている。何とか鳥取市内で、若い世代の方に就職・定着していただき、ご活躍いただきたいが、そのことを実現していくにはどうしたらいいのかということについて、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。

2つ目のテーマは「関係人口の創出について」である。ご承知のように、今、「関係人口」が注目されている。例えば、都市部等にお住まいの方で、地域や地方に関心を持たれ、いろんな形でその地域と関わっておられるような方を「関係人口」と呼ぶが、今どこの自治体もこの関係人口を増やしていこうと取組を進めている。鳥取市も、これからさらに関係人口を増やしていくためにはどうしたらいいかということで、いろいろ施策を進めているところである。これについても、委員の皆様からご意見・ご提言等をいただければ大変ありがたい。限られた時間であるが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員自己紹介

4 会長、副会長の選任

- ・会長 児嶋祥悟委員（事務局より提案すること及び提案内容に委員全員が承諾）
- ・副会長 西垣豪委員（会長により指名）

○児嶋会長

市政懇話会では、重大な市政の課題や市民生活に直結した市政振興策等について議論していきたい。本日のテーマは、若者定着の推進、鳥取市の関係人口の創出の2つである。皆様から活発なご意見をお願いしたい。

○西垣副会長

会長を支えながら、委員の皆様から活発な意見が出るように、また、テーマに基づいた有意義な会になるように精一杯努めたい。

5 鳥取市政懇話会について

（説明）

6 議事

（1）若者定着の推進について 資料2、3

（説明）

（意見交換）

○綱本委員

資料2の2ページの「生産年齢人口」について、65歳以上の方は生産年齢人口から外れているが、これはいつまで続くのか。平均寿命も伸びてきており、生産年齢人口を80歳ぐらいまでにしても困らないのではないかと。鳥取市の一存だけで変えることはできないと思うが、見通しはどうか。

■塩谷企画推進部長

こちらは統計の資料のため、全国統一の基準となっているが、綱本委員がおっしゃられる通り、人生100年時代になってきているため、今後、こういった区分けや年齢のところも変わってくるかもしれない。

○山田委員

鳥取市で「若者創業塾」という取組が行われていることを、資料で勉強させていただいた。私の家族が県外に住んでいたが、昨年、Uターンで鳥取市に帰ってきた。地元で店を開きた

いということで、この若者創業塾でコーディネーターをされた「鳥取県よろず支援拠点」へ相談に行くしかないというような状況だったが、鳥取市の方で、起業を希望するUターン者・Iターン者の相談窓口はあるか。

■大野経済観光部長

鳥取市には起業・創業の専門家がいいため、詳細な相談に対応させていただくことは基本的にはできないが、こういったところに行かれたらこういう相談が受けてもらえる等、そういうアドバイスは職員でさせていただいている。起業・創業については、基本的には鳥取県よろず支援拠点へ相談していただくと、トータルで相談にのっていただけるため、まずはここにご相談いただくのが一番早いと思う。

○山田委員

鳥取市の場合は、鳥取県よろず支援拠点が市内にあって近いため、そちらにご案内するという形でも良いと思うが、地元就職したいと思っても望む企業が鳥取になく、都会で就職してしまう高校生・大学生が多い中で、地元就職の枠を広げることも大事だが、若者が新しい事業を始めやすいような受け皿や相談窓口も必要だと思う。鳥取県よろず支援拠点への案内だけでなく、鳥取市独自でそういう相談窓口も設けて、どんどん地元に戻ってきてもらい、自分のやりたいと思う夢が実現できるような受け皿をしっかりと作っていただけたらと思う。今、Uターンした家族が空き家をリノベーションしているが、そのように鳥取に戻ってくると空き家対策にもなり、リノベーションを建設業者に頼めば、経済的な効果もある。また、地域貢献もしていきたいということで、地域の方と一緒に何かをしたいということも考えている。就職企業・大企業を呼ぶという車輪と、鳥取で夢が叶えられるという自分の起業、苦労はあっても鳥取市がサポートするから帰っておいでというような、もう1つの車輪も今後しっかりと作っていただけたらと思う。

■大野経済観光部長

おっしゃられる通りだと思う。鳥取市もそういう方向性を目指して取組を進めているところである。今年度、初めて若者創業塾を行ったが、企業に就職するという選択肢だけではなく、自ら新しい事業を起こしてチャレンジできるようなまちづくりを進めていく必要があると思っている。また、先ほど空き家のリノベーションのお話があったが、例えば新規事業と上手にマッチングすれば、中心市街地の活性化にも繋がり、地域への経済波及効果も出てくる。空き家のリノベーション事業についても、市としてもしっかりとバックアップさせていただいて進めているところである。そういった方向で鳥取市も頑張りたいと思っている。

○眞木委員

若者創業塾の取組について、今回大学生向けで実施されたということだが、会場が「鳥取市民交流センター」であるのが気になった。大学生向けということで、鳥取にいる大学生をはじめ、県外に行った鳥取出身の大学生に向けての創業塾という形で、より多くの方に参加していただくためには、例えばオンラインで繋いだり、今回の内容はビジネスを視野に入れていくような展開になっているため、鳥取市にはこういった起業のサポートがあるという周

知も行ったりしながら進めた方が良いと思う。あと、鳥取にある企業の新卒採用者数はどれぐらいか。鳥取にある企業で新規雇用がすべて埋まってしまっている状況なのか、それとも雇用自体が埋まらない状況なのかどちらなのか。新しく仕事を生み出すのか、今ある企業の魅力をさらにお伝えして、企業に来ていただくような形にするのかといった方向性をしっかり見極めるためにはそのような情報も必要だと思う。

■大野経済観光部長

県外の大学生に向けて、オンラインも活用すべきではないかというご意見だった。全くおっしゃる通りだと思う。今年は初めてということもあり、よりしっかり学んでいただくということで、市役所のスペースを使って開催したが、今年1回実施して、ある程度状況が掴めた。オンラインでの開催が本当に効果的なのかどうかも含めて、来年度に向けて検討してみたい。もう1点、そもそもこの地元で雇用自体が足りているのかどうかというお話だが、今、有効求人倍率は県内で1.5を超えている。まだまだ地元企業にとっては人材が足りてない状況があるため、受け入れるキャパシティは十分あると考えているが、一方で、雇用のミスマッチや就職したい企業がない等の意見が未だに多くある。そのあたりをどうやって埋めていくのかということで、市においても、従来型の製造業中心の企業誘致ではなく、誘致のあり方も数年前から変えてきている。例えば、今、県も同じように、どちらかという新しいビジネスを支援していこう、または、今は小さくてもこれから伸びそうなビジネスを支援していこうというような誘致活動も併せて行っている。いわゆるオフィス型・開発型の企業誘致と言っているが、令和5年度の県内での誘致件数の実績は5件であり、この5件全てが鳥取市である。そういった形で、これからトライしてみたいという方にもどんどん来ていただきたいが、そういった企業でチャレンジしてみたいという若者も併せて呼び込めるような仕事づくりをやっていきたいと考えている。

○児嶋会長

若者創業塾について、今後の計画はどうか。

■大野経済観光部長

今年度は参加者が5名で、逆にそれが非常に良かったという話もあるが、例えば、少人数で何回かに分けて行う形がいいのか、または、先ほどお話があったようにオンラインも含めて多くの方に参加していただき、いろんな意見を交わしながら行う形がいいのか、そのあたりも関係者の皆さんと協議して来年度の計画を詰めていきたいと思う。

○眞木委員

人材が足りてない企業もあるというお話だったが、例えば、新しいビジネスをされる方が地元の企業と連携して、何か新しく起業されるような形もあれば良いのではと思った。

○深沢委員

資料3の21～22ページの「鳥取市・麒麟のまち圏域魅力発見支援事業」の県内企業への潜入取材ツアーは、週末住人でコーディネートさせていただいた。昨年は「ローカルキャリアサミット」という形で動画を公開するのみだったが、今年は社会人3名の方に大学にお越

しいいただき、1つのテーブルに社会人1名と学生3～5名が座って、グループディスカッションをするような形式にし、普段学生たちが思っていることや社会人で大変なところは何かなど、密にディスカッションをするような場を設けさせていただいた。参加者の感想として、「こういう機会があって嬉しかった」という意見が多数あり、「またこういうイベントがあったら参加したい」という声も多かった。今回のような一対一で話せる場、ざっくばらんにディスカッションできるような場がすごく良かったという意見もあり、実際に働く現場も見てみたいという意見もいただいた。大きい講義室で、企業が自社の情報発信を行う形も良いと思うが、もっと密に小さな形でグループディスカッションを行うような方法も、鳥取市への就職に繋がる1つの鍵になるのではないかと思った。また、用瀬町に週末住人の拠点があり、環境大学や鳥取大学の学生も来られ、日常的に大学生と接する機会が多いが、自分の体感として、鳥取市内に就職した学生は1割ぐらいだと思っている。学生たちと話している中で、鳥取市に就職するという視点がそもそも出てこない学生がいたり、就職するなら東京という先入観がある学生がいたりするように思う。また、大学の施策は詳細まで分からないが、キャリアを考えるというところに対して、イベント的なものよりは、カリキュラムの1つとして場を設けるようなものがあって良いのではないかと思った。1～2年生のうちから企業訪問やインターンをする学生もいるが、4年生になってから慌ただしく就職活動を始める学生も多く見てきている。その学生たちは、就職活動をする時期になると、やはり東京の方に目がいってしまう。鳥取市にフォーカスしたとしても、なかなか企業のイベントとタイミングが合わなかったり、そもそも何の企業があるかが分からなかったりして、就職先の対象から鳥取市が外れているように思う。そういうところに対して、大学のうちで、何か施策等をされていच्छるのか。

○西山委員

今年の春の卒業生は、昨年よりもさらに就職内定率が高くなっている。まだ最終の数字ではないが、昨年の就職希望者の内定率は98～99%ぐらいであり、同時期でいくと、昨年をやや上回るような状況である。しかし、それは全体の状況で、県内への就職がどの程度決まったかというところでいくと、昨年よりも数字がかなり低くなってきている。様子を聞くと、やはり県外の大手企業の引きが非常に強く、そういうところに早くから内定が決まっているようだ。初任給等の条件の面で、都会との差がかなり出てきているような感じがする。そういう中で、県内でも業種によって奨学金の返済を減免するような職種があり、例えば、IT企業に就職すると学生の時に借りていた奨学金が減免される。そういう制度は非常に効果があるということを学生自身が言っている。都会の方では、会社独自で奨学金の減免制度を設けるようなところが始まった。県内就職については、やはり地域の総合力が試されるという印象を持っており、何か1つのことで上手くいくようなことは無く、親や地域、学校の早い時期の教育から始まって、先ほど説明があった「地元企業早期ブランディング事業」のような取組に繋がっていくのは非常に良いだろうと思う。子どものキャリア観というのは、高校2年生ぐらいまでには出来るという研究報告もある。そういう時にしっかりとキャリ

ア観がついた生徒は、しっかりとその目標に向かっていくと思うが、そういう教育はやはり幼少期からの積み重ねというような気がして、こういう取組は非常に大事だろうと思う。先ほど質問があったが、大学では1～2年生に授業としてキャリア教育を行っている。それは、大人数で外部の企業の方や先輩・OBから話を聞くようなものもあるが、少人数で先輩の話を聞いたり見学を行ったりするようなものも数多くやっている。昨日開催した企業説明会も、大括りのものではなく、小さなブースで企業の担当者の方が数名の学生との意見交換を繰り返しやっていく方法で、意見も言いやすい形になっている。学生の話を知ると、やはりOBの話が一番心に響くとのことで、なるべくそういう機会を作るようにしている。地元に戻って来てくれるというマインドを、どのように皆で作っていくかというところが非常にポイントだろうと思う。

○中井委員

大学生が就職をする際に、密に企業の担当の方や地域の方とお話することで、それが就職に繋がるということももちろんあると思うが、今の大学生はどのように就職先を見つけているのか。リクルートのサイトや企業訪問、企業説明会への参加など、どれが多いのか。

○西山委員

どのようなルートを通っているかというご質問だと思うが、それは分からない。例えば、秋田県出身の方が秋田県へ帰りたいたいという場合には、鳥取では就職先を見つけることができないため、先ほどおっしゃったようなエントリーをするサイトで希望の就職先を調べていくような流れになる。また、大学に相談員がいる。内部だけではなく、ハローワークなどいろんなところの外部専門家の方にも来てもらっているため、不明なところは大体解決していくと思うが、問題は、やはり意識が高ければどんどん先に進めていけるが、意識が低ければ活動が遅くなっていくような傾向があることだと思う。

○中井委員

私は企業の採用の仕事に関わらせていただくことがあり、リクルートのサイトを使って採用を行っているが、鳥取の企業がリクルートのサイトなどをより活用すれば、県外に出て行った学生たちがもっと見るのではないかと思った。

○小川原委員

資料2で、過去の経緯ということで統計は出ているが、資料3の施策は、これらの施策をすることによって、何年後にどうなるか、目標をイメージしているのか。目標とのギャップを埋めるのが施策であり、施策が目標にマッチしているかどうか非常に大事ではないかと思った。「鳥取市人口ビジョン」とはリンクしていると思うが、目標とのギャップは何かというところが施策の検証という意味でも大事だと思った。また、環境大学・鳥取大学の学生のうち、8割ぐらいの方は県外出身者であるが、この施策の対象としているロールモデルは、鳥取でずっと暮らしてきた方が新卒で鳥取の企業に入ることを目指しているのか、それとも、県外から鳥取大学や環境大学に学びに来られて、そこで鳥取のことを新たに知ってもらい、新卒で就職されることを目指しているのか。先ほどUターンの話もあったが、何が一番

のメインターゲットなのかをはっきりさせると、もう少しこの施策の内容がブラッシュアップされると思う。例えば、起業というのも非常にハードルが高い内容で、全員がそれに飛びつく訳ではないと思うが、鳥取の財界の方のお話をお伺いすると、一般企業に就職されて経験を積まれてから鳥取に帰って来られている方が多い。そういうような方は、なぜ鳥取に帰って来られたのか。それは多分、自分がどのように稼いで何者になりたいかというところから、次の段階で、社会人として何に貢献したいのかというところで、おそらく地元愛や地元の課題といったところに反応があるのではないかと思う。そういった話が、もしかしたらUターンのターゲットとする学生には響くのではないか。ただ、効果としては、新卒の人材獲得ではなく、Uターンを誘発するための戦略として、中期的・長期的にやっていくことになる。新卒の人材獲得は、やはり激戦になると思うが、本当に大都市と比べて勝てるようなマーケティング・コンテンツが鳥取の中で出せるのか。出せないのであれば、Uターンで帰って来られた方の成功事例を紐解き、それを早期に学生の皆さんに深く埋め込むようなことが大事ではないかと思った。あと1点、人口の話で言うと、統計は結果系である。この先行指標としてあるのは、やはり20～30代の女性であり、その方をいかに鳥取市内に取り込むか。要は、お子さんを産むタイミングというところがすごく大事なような気がする。シングルマザーの方までをターゲットにすると、50代ぐらいの方まで対象が広がると思うが、その方々を鳥取市内に取り込むと子どもが増える。そういうふうに、もう少しペルソナを明確にしていくと、取るべき戦略が見えてくるのではないかと思った。

■大野経済観光部長

若い女性に地域に残っていただく、または、外からたくさん来ていただくという戦略は、まさに正攻法だと思う。実際、福井県などの北陸地方の自治体では、そこを重点的なターゲットとして移住定住施策を組んでいたところもある。鳥取市の企業誘致も、どうやったら若い女性に残っていただけるのかという視点でも取り組んできている。その走りが、JCBのカードセンターなど、女性が集まりやすい職場を作っていこうということで、これは今も継続して取り組んでいる。やはりその視点は、ものすごく大事だと感じている。

○下江委員

私は環境大学の学生で、実際にキャリア教育を受けて、今回のテーマの当事者だと思いながらお話を伺っていた。先ほどお話であった、学生はそもそもどうやって仕事を探しているのかということについて、最近SNS等によく見かけるのは、ファーストキャリアを非常に大事にしている学生が多く、Z世代の特徴的な価値観として、転職ありきの人生を見据えている人がかなり多くなってきている気がする。そうなってくると、ファーストキャリアで大手企業を志望する方も多く、その理由としてSNSでよく見られるのは、大きい企業だと社員研修が非常に充実していることがある。長いところだと、1年近く研修があるような企業もあり、まずは一旦大手企業に入ってから考えてみるのはどうかと考える学生が多くなってきていると感じる。もう1つは、私はよく祖父母と話すけど、昔は今よりもいろんな会社を知る術がなかったという話をするところがある。今はスマホ1つでいろんな会社のホー

ムページやプロモーションが見られ、そういった情報を掴んで就職する人も非常に多くなってきているように思い、そういった企業のプロモーションも非常に重要ではないかと思った。それを踏まえた上で、今回お話にあった市の政策の中に、いわゆる新卒をターゲットにするだけでなく、鳥取で学んだり過ごしたりした人が1度外に出て、ファーストキャリアを積んだ後に、第2の職場として鳥取を選んでもらうというような視点も持つておくと非常に良いのではないかと思った。

○児嶋会長

下江委員は県外出身の方か。

○下江会長

私は県外出身である。

○児嶋会長

鳥取はどうか。

○下江会長

私は、鳥取はすごく好きで、のんびりしているところは自分の出身地と似ている。また、人がとにかく良くて、優しく、話しかけてくれるところもすごく好きで、住みたいと言えば鳥取である。ただ、働きたいかという、私は1つの仕事をずっとするのは苦手なタイプだろうと、3つぐらいの仕事を掛け持ちしながら生きていきたいと思っている。今、実際に、東京都の会社や千葉県の大学、鹿児島県の塾等の仕事をアルバイトで掛け持ちしている。そのうちの1つとして、鳥取は非常に魅力的に映っている。

■深澤市長

今のZ世代のお話を伺い、50年ぐらい前を思い出してみたが、やはり今の若い方の価値観は変わってきていると感じた。複数の仕事を同時にやってみたい、距離を選ばずにやってみたく、また、最初は大手企業を選び、そこで研修等を経験してやっていこうなど、非常に多様化・柔軟性のある考え方をお持ちであると改めて感心しながら伺った。

○児嶋会長

深澤市長は、鳥取に帰られた時、あるいは、鳥取にいて、最初に鳥取市役所に入庁されたか。

■深澤市長

実は、私も県外に住み続けたいという気持ちが少し強かったが、将来は鳥取市へ帰ることになるのかなと少し悩みながら考えていた。その時に、たまたま鳥取市役所が3年ぶりに採用試験をするということで、試験を受けてみたら採用していただけて、今に至っている。

○前岡委員

先ほど小川原委員が言われていたペルソナについては、弊社も若い女性をターゲットに設定している。キャリア教育については、私も環境大学で授業させていただいたし、鳥取大学もコーディネーターを設置されたり、企業訪問も非常に熱心にされている。高校においても、今日は弊社のスタッフが鳥取東高校でキャリア教育をしており、中学校でも5校ほど授業をしている。また、小学校の企業訪問や保育園での園外保育も受け入れている。これだけ鳥

取市、行政がいろんな施策をされているが、同時に、やはり企業も非常に頑張らないといけない、魅力を発信していかないといけないと思っている。そういったところに、市や県の教育機関がいろんな形で私たちのアピールの機会を作っていただいている。それは、大学を卒業して、新卒ですぐ鳥取に来るということが目的ではない。鳥取の魅力をいろんな形で発信していくのは行政の力ももちろんだが、子どもが安心して育てられる環境であること、そこに親の就職先があることも非常に大事だと思っている。今日初めて、地元企業早期ブランディング事業や若者創生塾、麒麟のまち圏域魅力発見支援事業を知ったが、1つ希望としては、これを経験された方がこの経験を通して鳥取に帰ってこられたかどうかという調査も引き続きしていただけると、先ほど言うておられた成果が繋がっていき、次のアクションプランを再考するきっかけになると思う。

○野村委員

起業も新しい産業の担い手になるので良いと思うが、一定のものになるまでには3～5年はかかり、採用する人数も限られると思う。それを踏まえると、やはり大手・中小企業限らず、企業誘致というのも一番手っ取り早い方策ではないかと思っている。市も県も取り組んでいると思うが、より今の若者にマッチしたようなIT関係の企業など、そういう時流に乗ったような企業・業種の誘致もぜひお願いしたい。私の子どもも結局県外の企業に就職してしまい、今から途中で鳥取に帰るという訳にはいかないため、そういった人材も拾っていただけるといい企業誘致もぜひお願いしたいというのが、一市民・親としての切実な願望である。

○深沢委員

若者創業塾について、新卒で創業をした時に、その事業が何年持つのかということがあると思う。企業に入ると社会人の基礎を学ぶこともでき、仕事を通して、その後の事業展開に繋がるようなことを得ることもできると思うため、若者創業塾の講師も、1度大企業や県外に出て、会社や組織に勤められて起業した方をお願いすると良いのではないかと思った。そういう方が講師だと、参加者の起業に対するハードルが下がるのではないかと思った。講師を選ぶ時も、そういうところを見据えて選出されるのも良いのではないかと、いろんなお話を聞いて思った。

(2) 鳥取市の関係人口の創出について 資料 4、5

(説明)

(意見交換)

○小川原委員

先ほどのテーマの資料 2 で人口推移の話もあったが、これからの指標は関係人口になってくるのではないかと考えている。そうなった時に、関係人口の定義と今何人いるのか、どこまでリアリティがあるものなのかがすごく大事だと思う。これは、資料 4 の 1 2 ページがキーだと思うが、この表でターゲットとされているところに、施策をちゃんとリーチできるような関係にあるのかが大事である。関係人口は、資料 2 の住民基本台帳や国勢調査で取れるデータではないと思うが、しっかりデータとして、行政もしくはその実行組織が持っているかどうか、関係人口の大前提としてのポイントになるのではないかと。資料 5 については、素晴らしい取組だと思う。先ほどのテーマに加えて、特に「ことらぼ」の取組など、ターゲットとしているのが例えば大手企業の社員だとするとすごく意味のある話であり、Uターンを誘発するターゲットとして明確だと思う。ファーストキャリアで IT の勉強をした後に、自分を活かすフィールドとして、こういった地域の課題を目の当たりにして、メンバーと一緒に協創するという体験は、すごく Uターンに効果的な施策だと思う。この施策に参加された方というのは、しっかりと ID として確保されているか。その方とのつながりをちゃんと持っておかないと、結局この施策をやりっ放しになってしまう。施策を実施した後に、その方にしっかりフォローができるような、もしくは、その方に今度働く条件として、具体的な環境を提示できるようにすれば、この取組が移住定住・Uターンに具体的に繋がっていくのではないかと。全ては、この関係人口の定義とその ID、誰というところが特定できるまで把握されることが何よりも大事だと考える。

■竹間市民生活部長

関係人口の定義をしっかりとすること、そして、その人数をしっかりと把握することが大事ではないかというお話をいただいた。鳥取市も、これから関係人口の取組をどんどん加速していく必要があり、そのあたりをしっかりと検討して、今後の施策に反映させていきたいと考えている。

■大野経済観光部長

「ことらぼ」の取組について、おっしゃる通り、非常に好評なプログラムである。日本能率協会マネジメントセンターと連携し、無料ではなく有料で行っている。1 人あたり 40 万円以上のお金を支払って、わざわざ勉強しに来ていただいているということで、それだけ期待度も大きいということだと思う。一昨年は、トライアルとして、モデル事業的に鳥の劇場等を使って、まず地域の状況をよく知っていただいて、その中で本当の自分を発見してもらうようなテーマで実施した。これがすごく好評で、最後会員の皆さんが帰られる時は涙を流

されていた。地元に住んでいる我々が思っている以上に、地域のポテンシャルはもっともつとあるということを実感したため、それをしっかりと外に発信していけるような取組にしたいと思っている。また、おっしゃられる通り、プログラム後のつながりをどうやって維持していくのか、そこからどうやってご縁を広げていくのかがこれからの課題だと思っているため、そこはしっかりと取り組んでいきたい。

○小川原委員

先ほどファーストキャリアに関するお話があったが、ファーストキャリアからセカンドキャリアに変わるタイミングは、20～30代ではないかもしれない。ことらぼの取組は、結構若い方をターゲットにされているが、もしかしたら40～50代等がターゲットとなるかもしれない。年代というよりも、どういうキャリアを積まれた方がこのプログラムに参加されて、どう思ったかということがすごく大事ではないかと思う。最初のテーマの時に、生産年齢人口に関して65歳の定義をどうするのかという話があったが、まさしく今、リスキングをテーマに、地方創生においてご自身が積まれてきたキャリアをどう生かすかというテーマに結びつけると、もしかしたら生産年齢人口の考え方も変わってくるのではないか。ターゲットングをもう少し幅広に考えるべきではないかと思った。

○網本委員

資料5の11ページの袋川沿線エリアには、今、幹の太さが50センチぐらいの桜が並んでいるが、全部切ってしまうと、幹の太さを20センチ前後で統一してはどうか。そうすれば空間が生まれ、桜が咲く頃には夜店もできる。桜は、今植えてあるのは多分ソメイヨシノだと思うが、しだれ桜や八重桜なども植えてみてはどうか。木は登録すれば不動産であり、木の太った部分は遊休不動産と言えないこともないと思うが、どうか。

■深澤市長

今、ソメイヨシノの樹齡がかなり歳を重ね、木が古くなってきている。また、歩道が近くにあるが、歩行者の方が少し歩きづらかったり、根が張って歩道を持ち上げたりするため、見直しをしようと、今取り組んでいる。大きな木は切った方が良いのではないか、それからしだれ桜なども植えた方が良いのではないかといろんなご提言をいただいた。そういったことも含めて、今まさに検討・研究を重ねているため、まとまったらお示しをして、ご意見をいただいて、保全を図っていきたいと思っている。

○眞木委員

資料4の12～13ページの「とっとり・つながりインフルエンサー」の取組について、ねらい自体はすごく良いと思うが、高校等のグループを対象としているところが気になっている。高校時代のつながりを繋げてほしいということは別の会議でも言ったことがあるが、インフルエンサーという形が良いのか。SNS疲れという言葉もあるが、インスタグラムを高校生に本当にお願いしてしまってよいのかという懸念がある。また、インスタグラムを実際にやるとしても、いわゆるグランプリという形にしてしまうと競争になってしまう。この事業の目的は、あくまでも鳥取の魅力を発信し、その発信者にも鳥取市を好きになってもら

うところにあると思うため、勝ち負けが決まってしまうことが気になっている。インスタグラムによるいろいろな犯罪等もあるため、そういったところのフォローもしっかりと組織の方で対応してほしい。あと、高校生が県外に出ていってしまう前に鳥取市とのつながりを作るということだが、このインフルエンサーの企画自体は、県外へ出てしまったら、そこでまた切れてしまうものなのか、どういった形で大学生になった後もつながっていくのか。例えば、各高校の生徒会長のような方が連絡網を作って、今後もつながり続けるような消えない絆づくりを施策として考えた方が良いと思う。

■山名地域振興課長

高校を所管する鳥取県教育委員会には、事前を取組について相談させていただいており、校長会を通じていろいろとご紹介いただくなど、協力をいただける体制にはなっている。また、ご指摘のとおり、SNSを使うというところで、フォロー体制をしっかりと必要があると考えている。卒業後、県外に出られてからも、このSNSのつながりが途切れないような形での仕組み、そういった成果をこちらも期待しているため、そのような事業になるように練っていきたいと考えている。

○下江委員

関係人口の取組をたくさんご紹介いただいたが、すごく良い取組だと思う。自分自身も、今、地元の関係人口と言われるような活動をしている。私が住んでいた地元は、高校の地域学習に非常に力を入れていて、実際に市の担当の方が来て、市の課題を提示し、自分が興味のある地元の特徴や課題を見つけて探求していく取組がある。他の高校でもされていると思うが、さらに密度の高いものになっていた。実際に高校を卒業してからも、その後、有志が集まって学生コミュニティを作って、卒業生がメンターとして地元の高校生をリモートで教えており、県外に進学した大学生が地元の高校生たちと一緒に地元について考える取組に発展してきている。モチベーションも結構重要だと思っており、地元の場合は、この学習にすごく積極的に取り組んだ学生を、未来の人材として、何名か都内の大学や研究所などで1週間学ばせるような仕組みがたくさんある。学生は、それに向かって頑張っていくというところで、モチベーションがどんどん上がっていく。さらに、そこでいろんな刺激もらった人が新しい仕組みを作っていくような循環の仕組みができていく。地元で人が帰ってくるのも大事なことだと思うが、鳥取の場合であれば、鳥取市についてこれからも考えてくれる人材をどれだけつくれるかということと、小学校や中学校・高校というタイミングで、どれだけ鳥取市を自分の学びのフィールドとして捉えてもらえるかということに力を入れていくと良いと思った。

○中井委員

今回、関係人口のいろいろな取組を知って勉強になった。「雛鳥プロジェクト」について、取組が始まった時に新聞やメディアで多く取り上げられていて、すごく楽しみにしていた。この会議の前に、プロジェクトは今どうなっているのだろうと思い、インスタグラムを見たら、フォロワーが19人であったり、投稿が6回であったり、何か寂しいなという印象だっ

た。資料に「フィールドワーク終了後も鳥取の魅力発信を担っていただく」と書かれているが、どういう発信をされているのか、また、地元に住んでいるとなかなか地元の魅力に気がつかないこともあると思うため、地元の人にも見てもらえるような発信に変わらないかと少し思った。

■大野経済観光部長

インスタグラムのフォロワーが19人しかいないということで、これについては、今後の課題としてしっかりフォローしていきたいと思う。また、おっしゃられる通り、外から来る人だけではなく、地元の人にもしっかりと地元の魅力を知っていただくことも大事だと思っている。いろんなプログラムを実施しているが、実は、ほとんどのものをYouTubeで動画にまとめて配信をしている。その動画の再生回数も、4万回を超えるものから数百回のものまで、ものすごく幅があり、どれだけ我々の発信力があるのかを試されている部分もある。どうやって知っていただくかという努力はしているが、我々も素人が動画の作成から配信まで行っているため、その辺りもいろいろ勉強させていただきながら、今後も努力を重ねていきたい。

○深沢委員

雛鳥プロジェクトの取組について、私は用瀬町での受入のサポートをさせていただいた。実際に参加された6名のうち、1名がまた鳥取に来てくれることになった。これは、現地で同年代の学生と知り合えたことが1つの要因かと思う。また、もう1つ、週末住人で「週末なべ部」という、地元の方を呼んで大学生が料理をしてもてなすようなことを行っているが、そこで地元の方とすごく仲良くなった。ちゃぶ台を通してのコミュニケーションのような、一対一の密なやりとりがすごく刺さったようで、それを楽しみにして帰ってきてくれる。関係人口の定義はすごく曖昧なところがあり、指標として計りづらいところはあると思うが、関係人口の定義の1つとして「県外から来た人がまた鳥取市に帰ってくること」を指すのであれば、1回鳥取に来てくれた人たちは、鳥取に行くハードルが下がり、もう1度鳥取に来てきてくれる確率が高くなると感じている。また、何度も鳥取を訪れてくれる方たちの共通項としては、地域の人ととても仲良くなったということがある。その方たちに、鳥取の良いところはどこだったかと聞くと、「人」というのがとても多く出てくる。日本全国、人はどこにもいるが、やはりその地域だからこそ会える人がいて、その人に会いに行きたいから何度も来てくれる。それを作っていく要因として、ある大学生が週末住人を題材にした卒業論文の中で、「緩やかなつながり”みたいなことがキーワードとしてあるのではないか」ということを書いていた。例えば、週末なべ部で、地元の方がゲームを出題したりトランプマジックをしたりすると、大学生や若手社会人の方たちはそれをとても面白がって、初めて会って1時間ぐらいしか経っていないのに、そういうすごく小さなところから打ち解け始めて、最後にはまた訪れたいという話になっていく。また、週末住人としては、リアルという部分だけでなく、180人ぐらいの若手社会人や大学生とLINE等を通して、オンライン上でもつながれるような仕組みも作っている。その方たちは、呼びかけたら鳥取に帰ってき

てくれる方や、県外にいても鳥取に関する商品を買ったり、鳥取への移住を考えても良いと思っ
ている方がいたりする。関係人口の取組の先に、どれぐらいの人数が移住したか、お金
がどれだけ落ちてどれだけ人が動いたかというところもすごく大事だと思うが、その手前
の施策として、そういうもう少しミニマムなところを攻めていくことは、これからも意味が
あることなのではないかと思う。

○西山委員

資料4の1ページに関係人口の説明の資料があり、非常に分かりやすく、よくできていると
思っ
て見ていた。この図の左側から右側に進んでいく、進めようとしているイメージが伝わ
ってくる。人とのつながりが出来てくる仕組みは、どういうふうに進めたらいいかと考
えて
みれば、いくつものパターンがある。観光から発展していくような体験型のものやイベ
ン
トで進めていくようなパターンや、先ほどもあったような地元出身者がセカンドキャ
リ
アやサードキャリアの中で関係性を維持しようとする場合など、いくつもの取組があ
っ
て、それぞれ多方面からアプローチすることが必要だろうと思う。ポイントだと思っ
た
のは、やはり「育っていく」という感覚があるということだろう。関係性は、最初
は
わずかだったり薄かったりするところから、だんだんと濃くなっていって、人とのつ
な
がりが明確になってくる。そうなるにつれてリピートになっていく。そういうところ
も
、単発ではなく、やはり継続性を戦略的に考えていくことがポイントではないかと思
っ
た。

○前岡委員

本日、お話を伺っていて、行政だけがいろんな施策をどんどん考えて頑張るというこ
と
ではなく、私たち地域に住む人間の意識改革や、企業としてどういう受入体制、魅
力
を発信していくかということも、1つの大きな課題としてあると思っ
た。

○児嶋会長

最後に、西垣副会長に総括をお願いしたい。

○西垣副会長

若者定着に関する課題や関係人口に関することは、委員の皆さんも含めて、き
っ
と地域全体が大きな関心を寄せていることなのだろうと改めて思っ
た。本日の会議で聞かせていただ
いた話をより多くの市民の皆様、団体企業にも発信していただ
い
て、鳥取市と寄り添って、このまちの魅力をどんどん伝えて、本日言われていたよ
う
な様々な課題が解決できるように努めていきたいと思っ
て
いる。私も観光コンベンション協会や自分の企業に持ち帰り、前
向
きに取り組んでいきたい。

■深澤市長

長時間にわたり、この2つのテーマについて、ご意見・ご提言を賜ったことをま
ず
もって心より感謝申し上げたい。本当に示唆に富むお話をたくさんいただいたよ
う
に思う。今後の鳥取市政の取組に限りなく反映させていただきたいと思っ
て
いる。本日のテーマは、若者定住、また関係人口の創出、いずれもこれから鳥
取
市がさらに活力あるまちになっていくように、また未来に向かって前進して
い
くために、大変重要なポイントになるテーマであると思

ている。また、本日は、この2つのテーマに関して、鳥取市が現在取り組んでいる施策等をご紹介させていただく機会をいただいたように思う。まだまだ改善すべき部分もたくさんあるだろうと思うが、本日いただいたいろんなご提言・ご意見等をもとに、さらにより良い施策・事業にしていきたいと思う。3年余にわたって、新型コロナウイルス感染症が大変な猛威を振るっていたが、いよいよアフターコロナ、ニューノーマル、そういった社会に向き合う時期になってきている。これからさらに鳥取市が前進をしていけるような施策をしつかりと進めていきたいと思っている。懇話会の皆様におかれては、またいろんな形で、ご意見・ご提言等を賜りたく、よろしく願いしたい。今日はどうもありがとうございました。